



## 【取組内容】

「車いすでもあきらめない世界をつくる」というミッションを掲げ、バリアフリー地図アプリ『WheeLog!』を開発・運営。高齢者やベビーカーを利用する子育て世代など移動に困難を抱える全ての人にバリアフリー情報を共有するプラットフォームであり、10万ダウンロード達成、10言語対応。移動困難者も住みやすい社会の構築に貢献し、行動変容の連鎖をもたらしている。車いすで街を散策しながらバリアフリー情報を集める「WheeLog!車いす街歩きプログラム」は、移動困難者以外の人々の参画も促し、5年間で30地域以上、延べ1500名以上が参加。

## 【評価のポイント】

普遍性	コミュニティ活動を通じて情報収集・発信を行い、世界中でリアルタイムにバリアフリー情報を共有できるシステムは、国際社会でのロールモデルとなり得る。
包摂性	移動に困難を抱える全ての人にとって重要なバリアフリー情報を共有することができる。
参画型	SNS性とゲーム性を取り入れ、障害者だけでなく健常者も参加し、地域全体で課題解決に取り組んでいる。
統合性	あらゆる身体状況の人が住み続けられる街づくりの実現につながり、障害者雇用の促進(経済)、地域福祉の改善(社会)にもつながる。
透明性と説明責任	公認会計士による会計監査と業務監査、団体の活動を年次報告書としてまとめウェブサイトで公開、支援者からの意見をアプリの機能改善につなげている。
変革性	バリアフリー情報をスマートフォンのカメラやGPS機能で収集しており、今後、移動情報のビッグデータとしての活用が期待される。
連帯性と行動変容	自宅で孤立している障害者に外出の機会や地域との関わりを持つきっかけ作りのため、健常者も含め様々な人々が一緒に楽しめる街歩きプログラムを開催。

